



## 小中一貫教育だより

学校教育課・教育センター版  
平成30年9月28日 No.8

(小中一貫教育推進だよりから 通算No.79)  
十日町市教育委員会学校教育課



陸上練習交流（中里中学校区） ※裏表紙で説明

## 「自己有用感」を高める

学校教育課指導管理主事 山本平生

毎年インフルエンザが流行の兆しを見せ始めると、各地の医療機関は予防接種を受けようとする人々でごった返します。待合室で自分の順番を待っていると、注射が怖い小さな子が泣き叫ぶ声も聞こえてきます。切なくなります。

ある日、医療機関に父親と女の子が予防接種を受けに来ました。例によって、壁の向こう側で、注射を怖がる子どもの泣き声が聞こえてきます。女の子の順番になりました。女の子は心の中で「なんで泣くのかな。我慢すればできるのに。」とっていました。接種が終わったときに、お医者さんが褒めてくれました。「すごいね。泣かないで偉かったね。」

続いて父親の番になりました。「いくつになっても注射はいやだな。泣きたくなるよ。」父親は心の中でつぶやきました。接種が終わってお医者さんが言いました。「……………」

褒められて、いやな気分になる人はあまりいません。褒められることで、「自分って結構やるもんだな。」と、自分自身に対する肯定的な感情をもつことができるからです。

しかし、このエピソードで「泣かないで偉かったね。」と言われた女の子の自己肯定感はあまり高まらなかったような気がします。泣かずに我慢するのが当たり前と思っている子にとって、真の褒め言葉にはならないからです。父親に、お医者さんはなんとやったのでしょうか。大の大人に対して「泣かないで偉かったね。」では、褒め言葉とはいえ何とも違和感があります。

自己肯定感を高める褒め方をするには、場面状況にフィットしているかを考えることが必要だということになります。今年度の小中一貫教育のキーワード「自己有用感」。これを高めるためにも、子どもの今ある状況や働きかけ方について、教師側の少し丁寧な省察が必要です。

## 8月末までの不登校状況について

平成30年8月末現在の不登校状況（欠席数30日以上の子どもの数）について、29年度同時期との比較から、次のような傾向が見えました。

**「小学校 昨年度より増加 1人⇒5人」「中学校 昨年度とほぼ同じ 21人⇒20人」**

小学校においては、新規不登校児童数の増加が見られるため、登校渋りが見られるお子さんに対して、校内委員会で情報共有、対策を取る等、組織的に早めの対応をしていく必要があります。

中学校においては、新規不登校生徒数、完全不登校（1日も学校に通えていない）生徒数が減少しています。不登校の未然防止・不登校生徒への組織的対応の成果の表れと考えます。

今後も子どもたちの小さな変化に目を向けていただき、気になる子どもへはきめ細やかに組織としてスピード感をもった対応を進めていただきたいこと、そのために「不登校予防のための早期対応マニュアル」の積極的な活用をお願いします。

### 『不登校予防のための早期対応マニュアル』のポイント

#### 1 『生活アンケート』の確実な実施

『生活アンケート』を継続して実施する。不登校予防にかかわる点検を確実に行う。アンケートは短いスパンで行い、あがってきた諸問題に早期に対応していく。

#### 2 『欠席・遅刻カード』を活用した全校体制での情報共有

欠席や遅刻・早退確認、保健室利用などをチェックして、全職員で不適應を起こしている児童生徒の動向を確実につかむ。電話連絡のあり方も今一度、校内で共有化を。

#### 3 「1・2（ワン・ツウ）運動」「1・1・1（ワン・ワン・ワン）運動」の実践

「欠席を関係職員に伝えた」だけで済ますことなく、個々の状況に応じてすぐに「1・2（ワン・ツウ）運動」、「1・1・1（ワン・ワン・ワン）運動」で児童生徒及び保護者に対応していく。

※『1・2運動』… 欠席1日目：電話連絡、欠席2日目：家庭訪問

※『1・1・1運動』… 欠席1日目から家庭訪問を継続（2学期はじめは特に）

#### 4 「欠席が連続3日・断続3日の欠席児童生徒」及び「別室登校や早退・遅刻が継続している児童生徒」の報告・対応

新たな不登校、または心配される児童生徒については、月末の報告を待たずに、すぐに「電話連絡」及び「不登校連絡シート：様式A・B」を市教委にあげる。月末の報告前に初期対応を進めていく。

#### 5 生徒指導上の諸問題の解決に向けて

不登校及び不登校傾向を起こす児童生徒は、不登校に係る問題だけでなく、別の問題行動へと繋がるリスクを背負っている。そうしたリスクを解消する意味からも、不登校予防や早期対応を徹底していく。

## 小中一貫教育中学校区合同教職員研修会を開催

8月2日の小中一貫教育中学校区合同教職員研修会では、多くの皆様から参加していただきありがとうございました。昨年に引き続き静岡県袋井市立袋井中学校の高橋壮臣教諭から「居場所づくり」「絆づくり」を通して「自己有用感」を効果的に高めるPDCAサイクルをテーマとした講演をしていただきました。

講演会では、昨年と同じ講師の講演でしたが、よかった(72.0%)普通(26.7%)で、実に98.7%の参加者から肯定的評価をいただきました。「具体的事例やアイデアが参考になった。」「PDCAサイクルの重要性、常に見直しの必要性を理解できた。」等の意見が多くありました。

その後の分科会では、中学校区に分かれ、自己有用感育成のために「居場所づくり」「絆づくり」を話し合ってもらいました。参加者からは、「小中で話し合うことは有意義である。」「2学期行事の参考になった。」「中学校区の課題が浮き彫りとなった。」など、多くの意見をいただきました。

本研修会を参考に、各中学校区で実施していただいている取組や実践の内容を、年度末に取りまとめて検証したいと考えていますので、よろしくお願いいたします。



## 英語教育推進事業から ～充実した夏休み各種事業～

8月1日、新規事業 T-TEC (ティーチャーズ・イングリッシュキャンプ) を実施しました。小学校外国語科移行措置に入った現在、教員の外国語授業力向上が求められています。当日は他の行事と重なっている学校が多く、8人の参加となりましたが、参加された皆さんにとって有意義な研修となりました。吉田中学校区は7月27日に要請研修として実施しました。各小学校におかれましては、今後どのように校内研修を進めていきますか。市教育センターへの要請を、ぜひご検討ください。

3年目を迎えたイングリッシュキャンプ。小学生は8月9日、中学生は8月22日に千手コミセンを会場に実施しました。小学生は20人の参加、中学生は10人の参加でした。以下は感想です。

「英語を聞き取れるようになった。」「知らない単語をしっかりと身に付くように教えてくれた。」(小学生)

「普段の英語の授業とは違い、本物の外国人と話すことで、自分の発した言葉が通



じることの楽しさを知ることができた。」(中学生)

英語ボランティアガイド養成講座は、中学生6人、高校生5人の申込があり、7月30日より開講しています。今年は、大地の芸術祭も開催されていることから、8月21日、22日の両日は松代ふるさと会館・農舞台周辺を会場に、現地レッスンも行いました。大地の芸術祭で来市された外国人訪問客と接することができ、貴重なレッスンとなりました。

本講座は、11月5日十日町中、8日十日町高、14日松代中でのスクールビジットに向け、プレゼンのレッスンに向かっていきます。



## 市教委訪問から ～要請訪問、いつでもお待ちしております～

9月13日に市教委訪問として、橘小で道徳授業の公開・協議を行いました。今年度から小学校道徳科がスタートし、教科書を使った授業が展開されています。中学校では教科書採択が行われ、来年度からの本格実施に向け、授業改善、いわゆる「考え、議論する道徳」への質的転換が求められています。

こういった背景から、道徳科授業の「要請訪問」も市教育センターに入っております。各校の校内研修に際し、ぜひ、教育センターにご一報ください。



## 中学校社会科担当者会議がスタート

9月19日、第1回中学校社会科担当者会議を実施しました。NRT対象教科として、中学校数学科、国語科、英語科に続いての開催です。(理科については、理セン研修等があり今のところ未定です。)当日は、管内のベテラン教員と若手教員が交じって、授業づくり、進度、テスト等様々な視点で情報交換、意見交流を行いました。

中学校一人教科担任が多い管内において、互いの情報を共有できるネットワークづくりの大切さを実感しました。



★学習指導班では、現在、「自己有用感を高める日々の授業づくり」を進めています。中学校社会科担当者会議において、指導案サンプルの情報提供をさせていただきました。また、「自己有用感を高める日々の授業づくり」リーフレット第2弾も作成中です。今後も資料、情報等を提供していきます。

<2018 小中一貫教育 共通取組事項> 「自己有用感」を高める日々の授業づくり  
日々の授業づくりの視点例 ～中学校社会科編～  
十日町市教育センター 学習指導班

サンプル

「指導書」を有効活用し、自己有用感を高める  
「対話的な学び」の場をデザインしましょう。

<p>【歴史】第6章1-⑦「憲法の条規により之を行う」 (教育出版 P168-169)</p>	<p>本時のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大日本帝国憲法制定過程と内容の特色について理解し、日本が天皇を元首とする、当時アジアで唯一の立憲国家となったことに気付く。</li> <li>○憲法のもとで始められた政治の特色を、議会や選挙、「家」の制度などからとらえ、現在の政治のしくみとの共通点や違いについて考える。</li> </ul>	<p>①単元全体を見通して、「対話的な学び」の場を創出するための軽重を付ける。</p> <p>ステップ2に注目! ★「現在と比較する」「共通点・違いを探す」に注目 →協働作業が成立しやすく、自分の根拠を見だしやすい。</p>	<p>本時のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○憲法のもとで始められた政治の特色を、議会や選挙、「家」の制度などからとらえ、現在の政治のしくみとの共通点や違いについて考えを意見交流する。</li> <li>○日本が天皇を元首とする、当時アジアで唯一の立憲国家となったことの意味について多面的・多角的に考察する。</li> </ul>
<p>《学習の流れ：教師用指導書より》</p>	<p>②価値ある意見交流を踏まえたゴールイメージ(振り返りの姿)を設定する。</p>	<p>③ゴールイメージの姿を表出させるための「展開～まとめ」を構想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「選挙権」「議会のしくみ」「家」制度など、生徒の考えの根拠となる視点は、本時展開で扱ひ共通理解を図る。</li> <li>・「江戸時代からの比較」「当時の暮らしのイメージ化」など、さらなる視点は、展開(共通点・違い)で、①生徒のつぶやきを拾う、②生徒に問いかけるなど、意図的に助言する。</li> </ul>	<p>前時</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国会の開設を約束した政府は、憲法を制定するために伊藤博文がドイツやオーストリアの立憲政治を研究し、日本で初めて憲法を發布したところまでおさえ、次時の「問い」として大日本憲法の中身への興味・関心を高めておく。(本時の時間確保のため)</li> </ul>
<p>導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習を振り返り、国会の開設を約束した政府が、憲法を制定するために何を行ったのか問いを持たせる。</li> <li>・資料から日本で初めて憲法が公布されたことや、初代の首相に伊藤博文がなったことに興味を持たせる。</li> </ul>	<p>④本時全体を見渡し、ねらい(身に付けさせたい力)や時間配分等を検討し、整理す</p>	<p>《本時の展開》</p> <p>導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習を想起させ、大日本帝国憲法はどんな憲法なのか、それは現在の日本国憲法と同じなのか、違うのか、関心を高める。</li> </ul> <p>展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎日本は当時アジアで唯一の立憲国家となりました。その憲法の特色やしくみについて、現在の政治と比べながら調べましょう。</li> <li>・資料や本文をもとに、①大日本帝国憲法の色や帝国議会のしくみ、国民の権利、②民法と「家」の制度、③帝国議会の選挙のしくみを調べる。</li> <li>《方法》ワークシート、思考ツール(マトリックス)、ジグソー法?《形態》ペア、グループ、一斉?</li> <li>生徒の回答に応じて、意図的に視点を広げる問いかけを。</li> <li>《考えを発表後の問いかけ例》</li> <li>S「選挙権は現在もあるけど、決められた税を納めた25歳以上の男子に限られているところが違う。」</li> <li>T「△△さんだったら、この時代に暮らしてみたい?」「なぜ?」</li> <li>T「江戸時代に選挙権があったら、何代将軍で倒幕されたかな?」</li> </ul> <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎日本は当時アジアで唯一の立憲国家となりました。このことは、日本にとってよかったのか、それはなぜか、あなた自身の考えをまとめましょう。</li> <li>他者の考えを共有化するために、周りの生徒に問いかける。</li> <li>《考えを発表後の問いかけ例》</li> <li>T「〇〇さんの考えをもう一度説明できる人?」「△△さんはどうして違うと考えたのか、同じ立場で詳しく説明できる人?」</li> </ul> <p>振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎今日は、当時の立憲政治について調べ、それぞれ考えをまとめることができました。あなたが参考になった友達の見方について、振り返りましょう。</li> <li>S「僕はこんな選挙権では意味がないと思っていたが、〇〇さんのように江戸時代までの封建制度と比べると大きな進歩ということに納得できた。もっと昔のことと比較することも大切なな。」</li> <li>S「憲法がでさ議会議が始まったとはいえ、選挙権を持つ有権者が1.1%ではみんなが参加できないのと同じ。△△さんと同じで当時は不幸な人もいたと思うので、やっぱりよいとは言えない。」</li> </ul>	
<p>展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文をもとに、伊藤がドイツやオーストリアの立憲政治を研究した理由を考えさせ、自由民権運動の高まりとの関係に気付かせる。</li> <li>・資料や「大日本帝国憲法」をもとに、憲法の特色や帝国議会のしくみ、国民の権利をとらえさせ、日本が当時アジアで唯一の立憲国家となったことを理解させる。</li> <li>→「ステップ1」「大日本帝国憲法の発布と帝国議会の開設によって、日本はどのような国家となったか確かめよう。」</li> <li>・本文をもとに、民法と「家」の制度が、女性や個人の地位をどのように規定していたかとらえさせる。</li> <li>・資料や本文をもとに、帝国議会の選挙のしくみをとらえさせ、選挙権が制限されていることに気付かせる。</li> </ul>	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このとき始まった立憲政治と現在の政治のしくみを比べると、どのような共通点や違いがあるかを説明させる。</li> <li>→「ステップ2」「このとき始まった立憲政治と現在の政治のしくみを比べて、どのような共通点や違いがあるかを説明しよう。」</li> </ul>	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本教科書の特色の一つに「ステップ1(学習内容の確認)」「ステップ2(活用・表現)があるので、展開を構想(「問い」の構想)する上での貴重なヒントになります。</li> </ul>	<p>振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎今日は、当時の立憲政治について調べ、それぞれ考えをまとめることができました。あなたが参考になった友達の見方について、振り返りましょう。</li> <li>S「僕はこんな選挙権では意味がないと思っていたが、〇〇さんのように江戸時代までの封建制度と比べると大きな進歩ということに納得できた。もっと昔のことと比較することも大切なな。」</li> <li>S「憲法がでさ議会議が始まったとはいえ、選挙権を持つ有権者が1.1%ではみんなが参加できないのと同じ。△△さんと同じで当時は不幸な人もいたと思うので、やっぱりよいとは言えない。」</li> </ul>

振り返りの記述(姿)について、その価値をフィードバックしたい。次時の導入として扱う(紹介)ことも検討したい。

## 第7回大地の芸術祭開幕! ~各校の取組、ありがとうございました~

51日間にわたって開催された第7回大地の芸術祭が閉幕しました。作品鑑賞に出かけた学校が多い中、作家を招いて講演会・交流会をはじめ、観光交流課長の講話の機会を設けていただいた学校がありました。子どもたちは、大地の芸術祭誕生の背景や今回の作品展の特徴などを真剣に聞き入っていました。また、作家による指導の下に一筆書き、緑の葉っぱのフロッタージュ、動物の帽子制作などにも取り組む学校もありました。夢中で作品づくりをしている子どもの姿は、まるで自分も作家になったように見えました。いずれの活動も、作家を身近に感じながら、大地の芸術祭の教育的価値(2018.4.13 校長会資料)にふれる活動だったと理解しています。

教育委員会の事業としては、英語ボランティアガイド養成講座のレッスンとして松代駅周辺で観光客に案内業務サポートをする活動をしました。また、教職員には、方丈記私記の他7会場の研修ツアーをしました。



モグラ祭り。およそ350人の児童が参加

さらに、支所や地域の振興会・商工会等が主体となって、生徒がボランティア活動に取り組む企画も実施されました。生徒の自発的意思のもと、他者との交流の場を設定していただきました。

今回の芸術祭では、すでに教育課程を実施している年度途中にもかかわらず、各校からは教育的価値を見い出してもらい教育活動に結び付けていただきました。世界最大級の「芸術祭のあるまち＝十日町市」として、子どもたちは自覚し、第8回の開催に大きな期待を寄せていることと思います。各校のご尽力とご協力に改めて感謝を申し上げます。

## 学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～10・11月～

日程	内容【会場】	備考
10月3日(水)	第2回学力向上推進会議【川西庁舎】	講師：教育センター担当
10月9日(火)	特別支援教育研修講座④ 「ソーシャル・スキルトレーニングについて」【十日町小】	講師：石野 公子教諭、山崎 彰教諭 (上越市立南本町小)
10月15日(月)	～プロに学ぶ～授業力向上研修 Part2(中学校数学)【川西庁舎】	講師：上越教育大学 松沢要一 教授
11月9日(金)	若手事務職員研修会Ⅱ 【川西庁舎】	講師：教育センター担当
11月12日(月)	エキスパート教員授業研修 【上野小】	講師：上野小学校 小林 信之 教諭
11月16日(金)	人権教育同和教育研修会【千手コミセン】	講師：県人権同和センター講師
	若手教員サポート中間研修会【川西庁舎】	講師：教育センター担当
11月21日(水)	不登校対策研修会② 【川西庁舎】	講師：新潟大学教職大学院 神村 栄一 教授
11月27日(火)	いじめ防止対策研修会③ 【情報館】	講師：上越教育大学教職大学院 赤坂 真二 教授
11月30日(金)	図書館担当者研修 【情報館】	講師：未定
10月31日(水) 11月8日(木)	市教委計画訪問	10月31日英語(南中) 11月8日国語(貝野小)
10月24日(水) 11月9日(金)	学力向上専門監事業	10月24日ハブ(十日町中) 11月9日中教研(まつのやま学園)
10月24日(水) 11月9日(金)	ハブスクール事業	10月24日(十日町中) 11月9日中教研(まつのやま学園)

### 【表紙の説明】

9月14日に田沢小学校で行われた中里中学校区の小中陸上練習交流。駅伝部の現役中学3年生が児童と共に走り、丁寧に指導していました。児童は憧れの目で先輩の走る姿を追っていました。